第２回みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議・作業部会資料②

資料①－１、資料①－２による協議

**○協議１の専用サイトについて、**以下のとおりの各市町からの推奨。制作の仕方、運営、経費、課題の面から協議し選択。制作のイメージ（項目内容）として別紙「サイトイメージ」を参照。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 協議１【専用サイト】 | 制作・運営 | 経費 |
| ケース４（３市町推奨）宮城インバウンドDMOのHP「miyagi cycle platform」に組み込ませていただく課題一般社団法人の事業者HP内に行政のサイトがあることで問題ないか。継続的な関係性をどのように保つか。 | DMOのHP編集者と連携し制作。各市町から編集の素材を提出。随時更新を大河原町事務局が担えるか、連携の仕方を検討。DMO財源の一部である東北観光復興対策交付金は令和2年度限りの予定、DMO事業形態が変わる可能性もある。 | 本年度の東北観光復興交付金の事業に組み込むもの。随時更新する際の費用は内容により発生する場合も。 |
| ケース３（２町推奨）専用サイトとして新規サイトを立ち上げる。課題行政のHP同様のセキュリティ管理を施すと多額になる。継続的に経費がかかる。 | 各市町からHP制作の素材収集し、大河原町事務局がHP制作業者に発注。各市町から情報をいただき事務局が更新。 | HP制作50万円、ネット使用・保守管理等で月15,000円程度（年18万円）＋セキュリティ強化 |
| ケース２（１町推奨）大河原町HPに追加ページ制作、フェイスブックは別に立ち上げる課題大河原町HPのレイアウトで追加。大河原町HPの一部であるため仙南のページに見えにくい。 | 大河原町HP内に事務局手作りでページを追加。セキュリティやアクセシビリティの信頼性はあるが、大河原町のレイアウト（ヘッダー・フッター等）様式内の制作で見栄えは悪い。経費は無料。ネット検索は「みやぎ仙南」で直ページを表示。DMO等HPにリンク。事務局がフェイスブックを随時更新。 | 大河原町HP内であるため発生しても大河原町の経費。 |

**○協議２のサイクリングコース設定前の環境分析調査について、**サイクリストに仙南地域に目を向けていただくために一市・一町だけでないコース設定を想定。各市町を跨いだ推奨コースを設定する際に、コース環境の状態を作業部会が理解している必要があると考える。

意見に対する事務局の考え**（太字が意見）**

1. **DMO等同様の事業と連携⇒**同じ方向性があれば同調して進める方がよい。国の交付金事業と連携だと本年度事業になる。
2. **分析、調査は大事だが、費用負担が気がかり⇒**市町村振興総合補助金活用による各市町の費用負担の内容を詰める。（大河原地方振興事務所から補助金制度の説明あり）

市町村振興総合補助金は、市町村の事業を支援するため、協議会では申請できず、代表の市町村の申請に対し補助をするもの。例として以下のとおり。

例）事業計画案にある経費170万円を事業費とした場合

例えば各市町からの負担金10万円×8（二市六町）＝80万円、事業費170万円‐80万円＝110万円を大河原町が市町村振興総合補助金に申請。該当すれば、大河原町負担55万円、県補助金55万円となる。負担金を除いた町の申請事業に対し2分の1補助。

1. **サイクリストに調査、分析を含めてコースも推奨⇒**国内ガイドマップでサイクリスト目線のガイドマップが多い。＋各市町のお勧めを足している。
2. **各自治体のヒアリングで十分⇒**各市町担当者がサイクリングの環境を熟知し、コースを推奨できるのであれば、分析・調査はなくてもよい。

**○協議３のガイドマップについて、**各市町から意見をいただいたので、協議のポイントをまとめた。

(1)ガイドマップのサイズ

　・ポケットサイズのミウラ折り⇒宮城蔵王トレッキングマップのような仕様。

　・Ａ４冊子⇒事前に見るにはよいが、持ち運びに適するかどうか。

　・みやぎ蔵王三十六景ナビゲートマップの地図を活用⇒同じ形式でジャバラ折り。

(2)ガイドマップ制作**（太字が意見）**

　**・DMO等の同様事業と連携⇒**国の交付金事業との連携だと本年度事業。インバウンド対応、制作企画、掲載内容、素材収集等の作業を進めるのに期間が短い。

(3)推奨サイクリンコースの設定**（太字が意見）**

**・ルートをどのように設定するのか⇒**仙南地域の中で何コースか設定。市町を跨いだコース。

例）サイクリング環境分析調査とサイクリストの意見、各市町のお勧め場所を組合せて作業部会で協議。

例）または、サイクリストから見たコースを推奨コース例に、各市町担当者のお勧めを加えて設定。

　**・市町で既にガイドマップがある⇒**仙南地域として周遊していただく視点での作成。

**・初心者用、入門編でのガイドマップ作成⇒**サイクリストを始めるきっかけ、他のガイドマップとの差別化、「走り始めは仙南」というような導入を流行らす。

**○協議４のチャリフォトコンテストについて、**いただいた意見に対して。**（太字が意見）**

**・DMO等の同様事業と連携⇒**国の交付金事業と連携だと本年度事業。インバウンド対応を含めた企画制作等が可能か。

　予定／コンテストは令和2年4～5月募集、6月結果発表、優秀写真をガイドブックにも反映という段取り。

**・募集、投稿の仕組みが重要⇒**専用サイト、フェイスブック、イベントでの呼びかけのほか、団体、グループへの投げ込みを行う。投稿先は大河原町事務局のサイクル代表メール宛に投稿を想定。結果発表は専用サイトで写真公開。

　**・モニターによる眺望、撮影スポットを調査するのであればコンテストは不要⇒**コンテストはサイクリスト間の交流の一環、気運の盛り上げ、投稿写真の中にある観光PR、素材の収集等、次の情報発信に役立つものと考える。

**○そのほか、いただいた意見に対して（太字が意見）**

　**・サイクルツーリズム先進事例に学ぶ⇒**成功事例、失敗事例を全員で集め、共有したい。

　**・市町村の温度差をどのように埋めるか⇒**首長の会議で仙南地域をサイクリングで周遊観光ができるようにという指示なので、まず情報発信から行い、一体感をつくる。

**・お金をかけない政策を考えてはどうか⇒**首長の会議で次年度の事業、予算を決めて連携事業を進める内容としている。費用がかからず、首長の会議で説明できる内容があるのであれば提案いただきたい。